



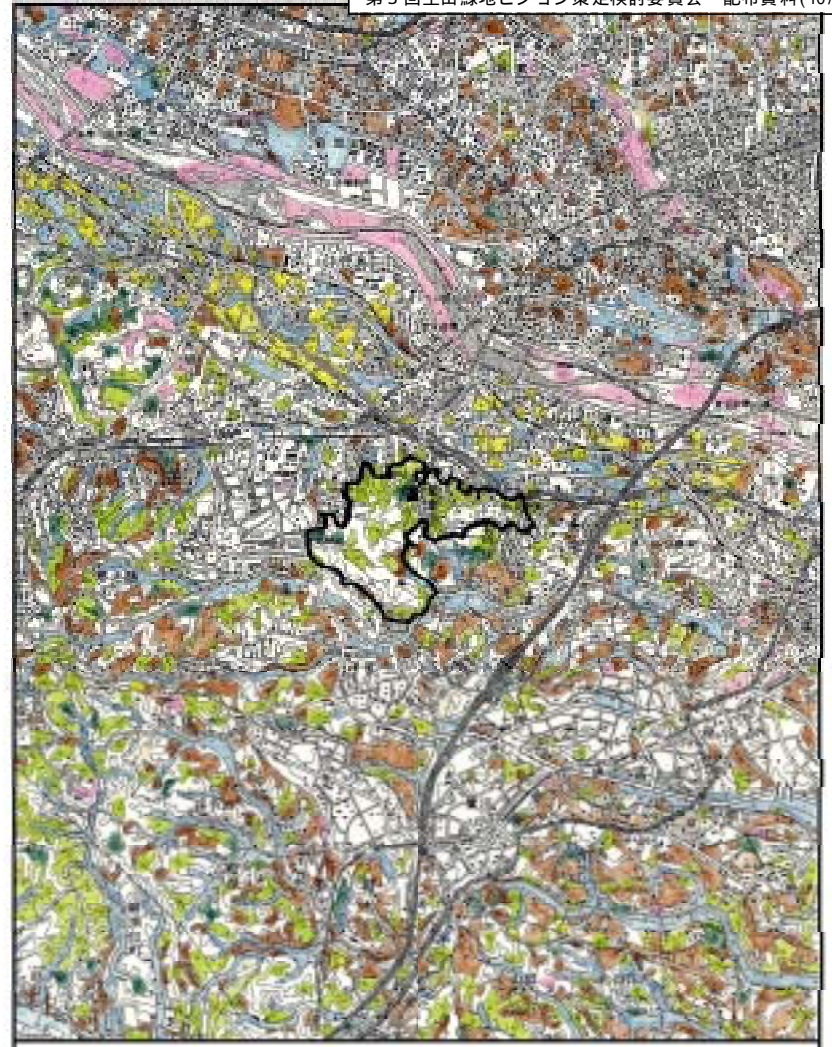
土地利用図 (大正11年)

凡 例	
	広葉樹林
	針葉樹林
	竹林
	荒地
	田
	桑畑
	果樹園
	その他

①樹林地及び農地の分布 (大正11年(1922年)⇒88年前)

- ・生田緑地及び周辺地区には、丘陵地環境には広葉樹林と針葉樹林がモザイク状に入り組んだ樹林地が広く分布し、谷戸部に水田が広がる典型的な里山環境を呈していたことが伺える。
- ・多摩川の後背湿地にも水田が広く見られるが、養蚕のための桑畑が広く見られるのはこの時代の特徴である。果樹園も多摩川右岸の川崎市側には比較的多く見られる。
- ・多摩川左岸の東京都側は右岸の川崎市側と比べると集落が多く樹林地が少ない。
- ・なお、「畑」が見られない理由は、大正11年時点では記号化されていないためである。

0 1 2km
1:50,000



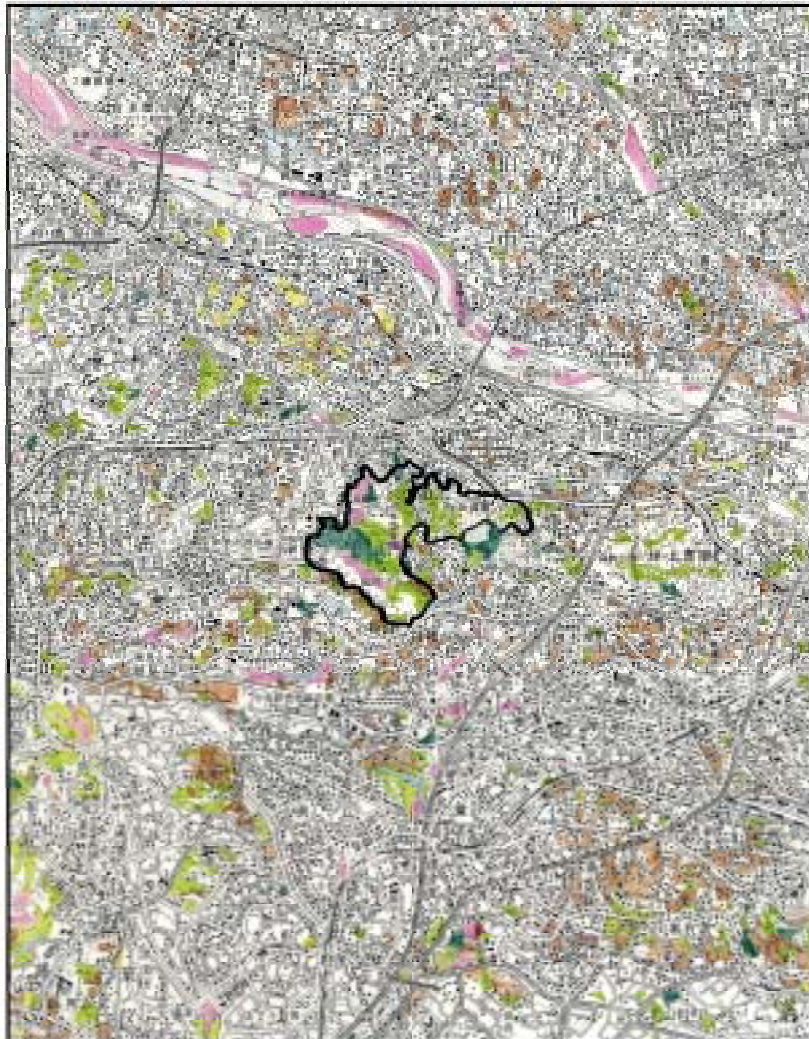
土地利用図 (昭和45年)

凡 例	
	広葉樹林
	針葉樹林
	竹林
	荒地
	田
	畑
	果樹園
	その他

②樹林地及び農地の分布 (昭和45年(1970年)⇒40年前)

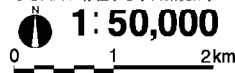
- ・大正11年から昭和45年にかけての約50年の間に、宅地開発や畑地造成等のため樹林地は大幅に減少した。中でも針葉樹林の減少が多く、残存しているのは小規模なパッチ状の広葉樹林であることが多い。
- ・ゴルフ場を中心とした生田緑地内の樹林地は、大正11年と比較して減少している。
- ・多摩川後背地の水田は減少し、右田や畑地、果樹園等に転換されているが、谷戸部の水田については比較的残存しているものが多い。
- ・多摩川左岸地に桑畑は多いが、桑畑は消失した。

0 1 2km
1:50,000



土地利用図（平成7年）

凡 例	③樹林地及び農地の分布（平成7年（1995年）⇒15年前（最新））
広葉樹林	<p>・昭和45年からの25年間の市街化によって、樹林地は更に減少した。平成7年時点で、ほとんどの樹林地は、生田緑地のほかにはほとんど見られない。</p> <p>・なお、樹木の生長（特にゴルフ場内）によるものか、生田緑地内の樹林地については昭和45年時点より増加している。</p> <p>・この25年間の市街化で農地も大幅に減少しているが、特に水田については激減しており、ほとんど見られない状況となっている。</p> <p>・上記のように、生田緑地のまわりや内にある樹林地と、小規模ながらも内外に存在する水田環境は、市街地化された都市地域の生物多様性保全を広域的に考えた場合、「エコロジカル・ネットワークのコア（核）」として重要な役割づけにあると考えられる。</p>
針葉樹林	
竹林	
荒地	
田	
畑	
果樹園	
その他	



生田緑地周辺航空写真（昭和22年）

昭和22年8月撮影

第3回生田緑地ビジョン策定検討委員会 配布資料(10/02/19)

